

平成22年度 塾長賞・塾長奨励賞

塾長賞・塾長奨励賞は、学術・芸術・社会活動・文化活動などの各分野において、学生の範となる活躍をした塾生を表彰するものである。

平成22年度は、塾長奨励賞に2件2名が選ばれ、3月の学部学位記授与式において表彰された。

塾長賞・塾長奨励賞について

塾長賞審査委員会委員長

学生総合センター長・文学部教授

伊東 裕司

慶應義塾では、正課の学業のみではなく、体育活動、芸術・文化活動、社会活動などのさまざまな活動を通して幅広い人間を育てるという教育理念に基づき、課外活動を推奨してきており、毎年多くの塾生諸君が課外活動において際立った成果を上げる活躍をしています。このような活動を顕彰するために、慶應義塾ではいくつかの賞を設け、優れた成果を上げた課外活動を表彰しています。

それらの賞の中で、体育活動以外の課外活動を対象とするものが、

塾長賞・塾長奨励賞です。学術・芸術・社会活動・文化活動などにおいて学生の範となる活躍をし、「当人の栄誉であるばかりでなく、慶應義塾の存在自体の光輝となる」塾生（大学生・大学院生）を表彰するものです。平成22年度は、5

件の推薦が得られ、慎重な選考の結果、2件2名の塾生が塾長奨励賞の栄誉に輝きました。表彰は、震災の影響で去る3月23日に変則的な形で行われた平成22年度学位記授与式においてなされ、清家篤塾長から受賞者の代表に表彰状が手渡されました。22年度の塾長賞は該当なし、という結果になったことは残念ですが、23年度以降の塾生諸君の健闘に期待したいと思います。

私は、塾長賞・塾長奨励賞の選考に関わって6年目になりますが、いつも塾生諸君がさまざまな領域で素晴らしい活躍をされていることに感心するとともに喜びを感じています。また、受賞者に続いて多くの塾生諸君が学業のみではなく、あるいは卒業後は本業のみではなく、幅広い活動に参加し、幅広い人間性を身につけ、社会をリードする活躍をされることを期待いたします。





いずみむら りな
磯村玲奈君
 法学部政治学科2年

2010香港杯全日本大学生英語スピーチコンテストにおいて第2位を受賞し、また日本の大学が主催する5つの英語スピーチコンテストにも応募して、4つの優勝を収めました。

これらの実績は英語会に所属しない個人での活躍によるもので、また英語を母国語とせず、2年以内の英語圏への留学経験がない者が参加できる条件のなかでの受賞であり、自己の活動の幅を広げている同君の積極性は高く評価でき、慶應義塾の誇りとするところである。



たかはし なおひろ
高橋直大君
 環境情報学部3年

ウェブ上で、世界中のプログラミングコンテストを主催している TopCoder 社の大会、2010 TopCoder Open, Marathon 部門へ参加し、6464人中第2位となった。応募した同部門は、崩落中の迷宮における探索を最適化する問題に取り組みプログラミングであり、今回は微差による第2位であったことで今後、一層の活躍に期待がかかることである。

また NASA と TopCoder 社による The NASA-TopCoder Challenge において宇宙での長期ミッションにおける医療物資の配分に関する問題に取り組み、参加者480名の中、第5位を獲得した。なお、このアルゴリズムは NASA で参考とされ、今後実運用されることが決まった。

同君の活躍は今後宇宙を舞台としての活躍に期待がもてる顕著な活動実績であり、慶應義塾の誇りとするところである。

※学年はいずれも受賞時